



連集良枝
寛永八年板

伊地知文庫
文庫20
218



土
二百八十八
全冊

伊
知
氏
連集良枝

十八公

丁固ト云人夢ニ胸ノ上ニ松生タルト三ルサメテ人ニ
カタリケレハ聞人云松ハ十八公トカクナリ。十八年ノ
後公タルヘシト云ケルトナシ如然十八年有テ。公ト
成テサカヘケリツレヨリ松ヲ十八公ト云

おひささの風はさびしき

むねささくさる花乃若さあて心敬

老タル松生タルト取成テ。胸ト云字。夢サメテナト付
ハ其古事ニ成ナリ

蘆穂綿

良枝



関子騫孔子ノ上足ノ弟也母ニオクシテ繼母ヲモ
 テリ。後ノ母ニ二人ノ子アリ彼母騫ヲニクミケリ父是ヲ
 不知或時又他出ノ事アリテ騫ニ車ヲ引出サシムルニ
 冬ノ天ニテ事ノホカサムケニテフルヒケルヲ父見テアヤシ
 メテ衣ヲトキテミルニ蘆ノ穂ヲ綿ニノイレヌサムキモ
 コトハリナリ當腹ノニ子ヲ呼出メ衣ヲトキテミルニ
 實ノ綿ニテソアリケル父怒テ妻ヲサラントス騫云
 母家ニアルトキレハ子サムシ母家ニキトキレハ三
 子サムカラントイヘリ此詞ニツマモ不法妻モ又ニク
 ム心ヲヒルカヘス関子騫カ賢モ天下ニ及ヘリ

まよふに似る中の一つより
 芦のちいさな穂 衣のちいさなあひて 專順

誠ニ衣ノ中ニイツハリアリケリ

七歩詩

魏ノ文帝弟ノ曹植ニ七歩ノ間ニ詩ヲツクレ若不作太
 法ニ行ハント云ケレハ則作ル詩云ク
 煮豆燃豆其豆在公中泣 本是同根生相煎何太急
 如此作心ハ豆ハ曹植我身ライヘリ其ハ兄ノ文帝ライヘ
 リ豆モ其モ本是同根ナルヲ相煎ル何太急ナル御
 ナサケナキヨシノ詩也奇特ナル戈智也惣七歩ノ
 戈ト云奇特ナル戈ヲ云也

結とくつれりこの人

同根生ト作ル間オナ子トシケリ連ル互タトハ兄弟

連枝ト云故也一句ノ心ハ只木ニテ也前ニ云凡時此詩也

王昭君

漢代匈奴ノ北地ノ夷也東夷南蠻西戎北狄トテ四方ノ國中ノ末ニ君ニシタカハテ威勢アルモノヲハ皆エヒスト云也日本ヲモ孔子ハエヒスト云ナリ我九夷ニオラマク欲スト。唐ヨリ東ニ九ノエヒスノ國アリ日本ハ八番メトイヘリ日本ニモ四方ニ都ニシタカハヌ者ヲハエヒスト云也熊野ナントノコトニ去程ニ漢ノ代ニ胡國ノエヒスト。中ヲナシルヘシト云宮中ノ美人ヲ一人給ラント夷云ケリ美人ヲツカハサルヘシトテ。三千ノ宮女ノ中ノ悪女ヲ遣スヘシ是ヲ撰出サンコト大儀也トテ其容貞ヲ繪ニウツシテ御覽セラルニ各畫工ニ賄賂ノ貞ヲヨクカセケル

昭君ハ我貞ノヨキヲ憑テ黄金ノ賄ヲモセス。シカルニ畫

工モ延壽偽テ貞ヲニシクカク也帝御覽シテ此昭君

ヲツカハスヘシト義定ノ召出メシハ第一ノ美人也繪

言カヘル事ナキ更ナレハ無カツカハス朗詠ノ詩ヲ見

ツヘシ今却似畫圖之中ト白樂天カ詩也ハルクト胡塞

ノ地ヘ赴間旅ノヤツレニテ繪ニカハレタリシコトク。ミニク、

ナリタリト云詩ナリ馬上ニテ琵琶ヲ彈シケルトイフ

あゝよきをうらむ女やうらむうらむのん

あゝよきをうらむ女やうらむうらむのん 入るこころに敬

みづゝひは後の影のつらさなりけりささげらまきやハ

王昭君ト去題ニテ昭君ニ成テヨメリ鏡ヲミテ貞ノヨ

キヲウラムル心也此貞ヲタノミテ賄ヲモセスカハラス

八期ヲモ。シテ之ヲ賄フシタラカ、ラマシヤハトハカ、ル
アサミニキ目ニマメヤ下云心也又同題ニテ
是川のゆくれあつたつておひきく人もあは
糸をのこすてたつて
照君カアリサマ也

李夫人

漢ノ代ノ人也君ノ寵愛ナクメナラス死後反麝香ト云
物ヲタカレケレハ面影ノコトクニエケルトナシ又畫ニカ、
セテ御覧シケレトモ不言不笑トテ。カナシニミタマヒ
ケルトナシ

まゝのたつらうへおのけしうふ

おのけしうふのたつらうへおのけしうふ 専願

結髪

唐ノ千ラヒニヤ我妻ニ世ト思フ女ヲハオサアヒトキ
髪ヲ結ルヲタノメトス文集云與君結髪五載トイ
フ五ノトキ結ルカ伊勢物語ニ井ツクノ本ノ女ノワカキ
ヲミテヨメル歌ノ返シ

くさくさ髪をかくるぬをさしてはあそ
んぞあそびかきぬまねちひりよ

思ふさうらなれあそぶくろくろん 宗伊

南風

唐ニ我カ妻ヲ帝王ニトラヒテ。行トキニ帯ヲカタミニヤ
リテ云南風ノフカトキ我カタマシヒ汝ニ通フト。シシ
ト云ケリ

まねくろくろのぬや白くろん

良枝

四

つゝつゝのそりけり〜のそり〜 心敬

傳説

殷武帝イノグテイ父ニオクレ給テ。三年物ヲモ云給ハス尚書諒
陰三年不言スモノイハ云諒陰トハ諒闇也君ノカクレタマフ中
陰也陰ハ點也モノイハヌ事也中陰ト云心モ中ハアタ
ル也陰ハモタス也物イハヌ事也武帝三年物モノタ
マハテ過シ給シ故也三年不言ノ心ハ父ニオクレテ政
ヲ行ハシスベシ不知ト也天其心ヲ察メ傳説ト云賢
人傳野ト云處ノ巖ノ中ニ飯築トテ板ヲ四方ニカ
コミテ居タリ其傳説ヲ武帝ノ夢ニ見給ヒケリサメ
テ後繪ニウツサシメテ天下ヲ尋ルニ此傳野ニノ尋ア
ヘリ繪ヲ引合スルニ露不凝則召テ政ヲアツケ給ヘリ。

其後物ヲノタニヒケルトイヘリ我渡海河傳説ヲ舟カキ
トセン菜羹ヲ和セハ傳説ヲ塩梅トセントノ給ヒケルトナシ
班婕婦

班姬トモ班女トモ云君ノ寵スダツテ恨ノホムラクルシカ
リケル比月ヲ見テ扇ヲ造テ身ノホムラヲサシケリ月
ニ清涼不變ノ徳アルユニ二月ヲ涼シキ物トス詩云新裂
齊紈素皎潔如霜雪裁爲合歡扇團々似明月以下略
之白キ絹ニテハレルウチワナルヘシ其色霜雪ノ如シトイ
ヘリ朗詠扇ノ詩ニモ盛夏不消雪ト作レリ又班婕婦團
雪ノ扇トモ作レリ團ハ口キカタキ也
又輕羅小扇擊流螢ト云詩アリウスモノニテハレル扇也

關白家ニテノ發句也ト云袖モ羅也扇モウスモノ也上
萬家ニテノ發句ト聞タリ拾遺ニ扇ニハル羅ト云夏
アリ

唐ノ玄宗ノ寵愛也クハシクハ長恨歌ニアリ

上陽人

是モ玄宗ノ寵ヲ受タル人也然ニ十六ノ年楊貴妃ニ思
カヘラシテ上陽宮トテ都ノ巽ニ宮ヲ造テ窓雨ニ心ヲ
イタミシメテ六十ニテ物思ニテ過シ給ヒシ人也文集
上陽人ノ段ニ委見ヘタリ窄衣裳細黛外人不見々
可笑ナント云詞アリ。六十。古宮。窓雨ナント云句多

上陽人ノ心ツクル事不可勝計

朝雲暮雨

楚ノ襄王嬖亂ナル君也晝寢ヲシ給ヒケルニ巫山ノ神女
瑞變ナル女ニテ。夢ニミエケリ。サメテワカル。時彼女云朝
ニ行雲トナリ暮ニ八行雨トナル朝々暮々陽臺下至
ト云テ去ヌ誠ニ其語モアシタニ雲々ナヒキ。夕ニ八雨フ
リケリ。神女ナリト知テ。廟ヲタテ、是ヲミツル巫女廟
是也。二エノ殷夢ニハ替テ。アサニシキ夢ナルヘシ雲ト
ナリ雨トナルト云コト源氏ニハ死タル人ヲイヘリ。死ニ下
同ニ事ナシハ云カ

後京極

ふれはれ多ふみあもさるるあかり雨々々もやの終い
ひりのあけおもしろし

あゝいよの空のわが山乃振まじり 宗祇
旅子シタル朝夢サメタル時分襄王ノユメノ面影思ヒ
イタス心ナリ

屈原

楚懷王ニツカヘテ三閭大夫タリ同列ノ大夫屈原カ多
クナルヲ妬テ君ニ讒ス屈原ステニ十カサレテ吟澤畔
顔色憔悴形容枯槁ヒトリノ渙父舟ヲサレヨセテ見テ
問曰子三閭大夫ニアラスヤ何故ニコトニ至哉屈原云世舉
皆濁我ヒトリスメリ衆人皆醉我ヒトリ醒タリコノ故ハ
ナタレタリ渙父曰聖人物不凝滯而能與世推移世人皆濁
何其泥濁其波不揚衆人皆醉何其糟餽其醑不飲何故深思
高舉自今放乎屈原云我聞新沐者必冠彈新浴者必振

ツクンツ能身ノ察々タルヲ以テ物ノ攸々タルヲ受ニヤ寧
湘流ニ赴テ江奥ノ腹ニ葬ラルトモイツクンツ以皓々白世
俗ノ塵埃ヲ蒙シヤ渙父莞爾笑舳ヲ叫テ去即歌テ曰滄
浪ノ水スメラハ以テ吾纓ヲ濯ヘシ滄浪水濁以吾足ヲ濯
ヘシ遂去復共不言是ハ離騷ト云文ノ意世俗云ツイ五
月五日汨羅江ニ息ヲナケヌ妻悲テ供物ヲ水ニ入或トキ
夢ニ屈原云供物ウケントスレハ龍ノタヌニ奪テウケヌ茅
ノ葉ニ包テ五色ノ糸ニテ卷テ入ヨト云教ノコトクシケレ
ハ無妨ウケトルト云今ノ五月五日菖蒲卷其故ト云リ可尋
世の中いよの空のわが山乃振まじり 宗祇
あゝいよの空のわが山乃振まじり 宗祇
あゝいよの空のわが山乃振まじり 宗祇

世ハこれさけのえひのたよりの事 宗祇
我ヒトリ。スメルトイヘトモ其跡モ。コラス我ヒトリ。サメ又
ト云臣夢トツクル世ハ三ナト。ツククル本文ニ叶テ殊勝也

伯夷 叔齊

此二人ハ孤竹ト申國ノ王子也伯夷ハ兄トシテ父ノ跡ヲ
ツクヘカリシヲ弟ノ叔齊ニユツル弟ハ兄ニユツル共ニ國ヲ去
テ。周ニ入テ文王ニツカヘテリ。文王死後武王則位ニツキ兵ヲ
起シ殷人紂ヲ討シトス。父ノ喪ニ居テ戰ヲ企ル事不仁
ナリトイサメケレ臣不用シテ既ニ打出ルニ馬ノ前ニ進ミ
出テ嚙ヲヒカヘテ。イサメケレハ衆人イカリテ二人ヲ害セ
ントス太公望曰カレハ義人ナリトテ扶令去諫ヲハ不用
兩人首陽山ニ入テ周ノ粟ヲクハジトテ。藜ヲ折テ食ス

人在テ云。藜モ猶王土ノ草ナリト云ケレハ。ウエテツノマ、
死ケリ胡曾詩ニ首陽山ハ。夕ヲレテ平地トナルトモ兩人
ノ賢名ハ不可失ト作レリ。ゴトノ賢人也

太公望

呂望子牙皆同名也。周ノ文王ノ時狩出給ヒケルニト
莖トテ占ヒスル者ノニ。今日ノ狩ノ獲物ハイカニト占ナ
セラル、ニ非熊非羆非鹿賢人ヲ得給フヘト申ケリ。ソレヨ
リ非熊ノ兆ト云。此事也ハタシテ。渭濱ト云處ニ太公望釣
ノアリシヲ具ノ車ノ右ニノセテ飯リ給ヘリ車ハ右ヲ賞翫
トス。サテ文王武王父子ノ世ニツカヘテ兵術ヲ教ヘ國ヲ伐
ヘキ謀ヲノヘケリ六韜三畧已下ヲ説ケリ。ツイニ惠王ナリ
シ殷ノ紂ヲウキ取テ。周ノ代ニ成シモ。太公望カ功ナルヘシ

太公望ニモ齊ノ國ヲ賜ル子孫十世相繼テ齊ノ國主タリ

卞和璞

卞和。荆山ト云所ニ璞玉トテ未琢玉ヲ求メ出ノ是希
代ノ重寶ト知テ。楚ノ厲王ニ獻ス。王是ヲ玉人トテ玉
ニカク者ヲ召テ令見是石也玉ニアラスト云。怒テ卞和
カ左ノ足ヲキル。卞和ナケキテ次ノ王。武王ノ時又獻之。
如先石ナリト云。又右ノ足ヲ削テ卞和左右ノ足ヲキラレテ
此玉ヲ抱テ晝夜哭泣ス。兩足ノキレタルヲナケカス此玉ヲ
シルモノナク。我ヲ偽人ニテセルヲノミツ嘆ケル我身ノ不
實ニ沉ヲハ不憂世上賢文ノ人アリトモ如此知人ナク
佞人小人ノ虚名ヲトラシ事ノアサニキヲ思テ歎ケリ
又次ノ王。文王即位ノ日此事ヲ聞テ。其玉ヲ召シ玉人ニ令

見義玉ナリト申ス仍琢之。和氏ノ夕ニ是ナリ。其玉ヲ抱テ
哭セシ処ハ抱玉岩ト云。コノ夕ニ車ニアレハ。アトサキノ車
十二乗ヲ照スト云

ゆゑのまらにまらふ小車
よるひるむとつににらひま
行助

一名。夜光ノ玉ト云。ニ如此付ナリ

こゝつともあれは
此世にあひく
當

范蠡

越王勾踐ノ智臣也。吳王夫差兩國ノ合戦ニ越王ウチニケ
會誓山ニシテ囚ハト成之時。范蠡イロク計畧ヲメク
ラシ。ニッ西施ト云義人。越ニアリシヲ吳王ニタテニツラ

シト云。吳王ノ智臣ニ伍子胥ト云者此。嘯ヲ聞テ。サラ
ニウケゴハス。サレトモ西施美人ノ聞ヘ有ケレハ。吳王是ヲ至
テ越王ヲユルス。越ニ飯テ會稽ノ耻ヲ雪事ヲタクム。蠶
カハカリコトニテ程ナク。吳ヲ討取。范蠡勾踐ノ本意
ヲ達セシメ。今范蠡ハ越ノ大臣トシテ。政ヲ取テ。功名福貴
可任意時節也。然トモ功成名遂身退ハ。天ノ道ナリ。大
谷ノ下ニハ。又ク居ルヘカラス。大功ハ速可退ト云テ。勾踐
ニイトマシコヒテ。乘舟泛五湖。此五湖ハ。吳越ニ亘大湖
也。天下第一ノ名所也。此湖水ニウカシテ。風烟ヲ樂メル也。
後ニ姓名ヲ改テ。陶朱公トモ。或ハ鳩夷子皮トモ云。其後
ホドナク。吳ヨリ越ヲウキトルト云。

舟ニテ世ヲスツルハ皆范蠡カ古事也

舟ニテ世ヲスツルハ皆范蠡カ古事也

函谷

孟嘗君ハ齊ノ公子ナリ。秦ノ昭王ニツカヘケリ。家富貴ニシテ
三千ノ客ヲハクム。狐白ノ裘ヲモテリ。狐子ノ腋ノ毛ニテ
ツレル衣也。天下ノ重寶トス。コレヲ昭王ヨリケレハ。オシ
テヒソカニ國ヲ出テ。齊ニ逃去。夜深ノ函谷ノ關ノ戸未
ヒラカス。三千ノ客ノ中ニ鷄ノ鳴ニ子スルモノアリ。鳴ニ子ヲ

まつたふの時を越さるるしん
よそめつちあふなをささるる
せの中にあふふみこはあく
こはくはれゆくあまはけり
世はまつたふは人よやうさるるん同

シケレハ真ノ鶏モナキツタホトニ關ノ戸開テコトヨラスク
逃去又函谷谷ハ日本ノ逢坂ノコトク都ノ東ニアリト云和歌
ニ鳥ノ鹿音トヨム是也

我々此山よ志はふみあし
我々此山よ志はふみあし 宗祇

明ヤラ又關ノ戸ノミヘニテ昔ノ函谷ノ鶏ノ鹿音ヲ願心也
不如歸

蜀國ノ王名ヲハ杜宇ト申成都蜀都也ヲ出テ旅ニメ死ス其魂
鳥ト成テ春夏ニ鳴コレヲ思歸鳥ト号ス其故ハ古郷ヲコ
テ不如歸々々ト鳴間不如歸鳥トモ云又子規又蜀魂蜀
魄トモ云昔郭公ノ古事也文選ニハ鳥ハ杜宇カ魄ヨリ出
トイヘリ此鳥オノカ古郷ニ不飯ノ他郷ニテ死セシコトヲ悲シ

テカノ行人旅客ヲモ不如飯々々々スメテハヤク古郷ニカヘ
レト教ユルナリ

花ハあを葉よるをあつこ
何なるまをいほくよらん 宗祇

春ヲサヘホト、キス不如飯ト鳴テカヘセルカト也

おほつらあやゆすゑのしら
あつこよらん 同

又宗祇ノ發句ニ

かへつなよるよらん 宗祇

是ハコトタヨリホト、キスニ云カケタル心也カヘルニハカ
レトテ郭公ヨカヘル多クニハカレト云心也

鳥頭白

燕太子丹ト云人秦ノ國ニ囚人ト成テ頗ニ本國ニ歸
ラシ事ヲ思ヒ詞ニモ云ケリ。始皇燕丹ニ向テノ夕マハク
鳥ノ頭白ク成馬ニ角生タラハ汝ヲ本國ヘカヘスヘシト。
夕ハフレニイハレケレハ燕丹聞テ悲テ。天ニウツタヘケレハ
則鳥頭白成馬ニ角生ケリ。綸言不返。習ナレハ丹ヲ飯
サレケル

山鳥ウツクうららし白くありいづりあふるるる可やまあらん
熊野音無川ノ邊ニ頭白キ鳥アリケルヲ三テ。ヨメルト云
南帝ノ吉野ニマシクケル時。鳥ノカタラヒケレハ公卿ノ
中ニヨメル

都ヘ還幸ナシタキ心サモアリ又ヘシ
子ウツク子ウツクと鳴やううわうわ山鳥うららし白くありいづりあふるる可やまあらん

不死藥

秦ノ始皇死セシ事ヲ悲テ。徐福ト云者ヲツカヒニテ。蓬萊ヘ不死ノ藥ヲ尋ニツカハス大船ニ童男女數十人ノ
世テ。ヤリケリ。文集ニ噉不飯舟中老ナシト云蓬萊ヘ不
行。熊野ノ飛鳥ニ舟ヲヨセテ。ソコニテ徐福ハ死ケリト云
徐福力塚トテ。アスカニアリ。又アスカヲ蓬萊トモイヘリ。
サルホトニ始皇ハ徐福ヲマナカ子テ。海邊ニイテ。待之
ニ始皇病ノ海邊ニテ死ト云

指鹿云馬

秦ノ始皇死テ李斯趙高ト云二人ノ臣下アリ始皇死ス
ル時。長子扶蘇ニ位ヲ讓ル由ノ狀ヲ書テ。李斯ニ給ル。李
斯此狀ヲハ隠テ。扶蘇ヲハウツヘキ由。御遺言ナリトテ兵

ヲサシツカハス扶蘇不^ス爭^ハニテ自殺^ジシヌ扶蘇ハ器^キ用^ヨアリケル間如此^コシケリ胡亥^コトテ二番^ニメノ御子^ノノ幼少^コナルヲ用^ユユ是^レヲ二世^ニトイフ李斯^ハ趙高^トモニ大臣^トシテ秦^ノ國^ノ政^ヲツカサトラント世^ニ處^ニ趙高^又李斯^ヲホロホサント思^テ李斯^ノ叛逆^ノ心^{アル}由^ニ二世^王ニ讒^シケリ然^ル間^李斯^モヨサ^ル趙高^イハ思^{コト}モナクテ威勢^ノアリニ庶^ヲサシテ馬^ト云^{ケリ}心^ハ我^ノ威勢^ノホトヲミンタメ也^是ハ庶^也馬^ニテハナシト^シトモ皆^ノ威勢^ニ恐^テ庶^ヲ指^テ馬^ト云^{ケレ}ハソレニ置^{ケリ}拾遺^ニ車^ノカモヲカリニ人^ノ方^ヘツカハシケルニ無^由申^{ケレ}ハヨメル

あはれさうてさういふはせよあはれさうてさういふはせよ
ぬ

車^ノカモトハシク物^カ歌^ノ心^ハ庶^ヲ指^テ馬^ト云^セモアレハ鴨^ヲモ鷹^ト取^成也^返事^ノ心^ナシトイハオシムトヤ思^{ラシ}庶^ヲ指^テ馬^ト云^偽タル世^ノタメニアルユヘ人^ニウタカハル^無念^ノ事^也庶^ハ廉^馬ハ馬^トスクニ云^置タラハ今^カモヲナシト云^ヲモ實^ニ世^{スル}ニ偽^{タル}世^ノタメニウラムル心^ナリ

三ツツク
三四放駒^ソヤセタルトアラハカヤウニ付^カタニ本^説馬^ト云^{タル}故^也サテ二世^胡亥^ヲモ趙高^カ力^聲ノ閻^樂ト云^者ヲ遣^ス打^殺スサテ子^嬰立^テ爲^王ツツカニ四十六^百位

あはれさうてさういふはせよあはれさうてさういふはせよ
あはれさうてさういふはせよあはれさうてさういふはせよ

二居ノ天下乱漢ノ代ト成又

四皓

遠公綺里季夏黃公。南里先生。此四人ハ秦ノ乱ヲ避
テ商山ト云山ニ隱居セシ此四人年皆八十有餘鬢眉
皓白トシロカリケレハ四皓ト云也。漢ノ高祖ノ時東宮
ヲトリカヘント云事アリケリ。東宮ノ母張良ニ是ヲ談
合セラル。張良カ云太子ノ御書ヲモツテ商山ノ四皓ヲ
召出サレヨト申則書ヲ遣サル四人太子ノ御モトニキ
又高祖見給テ誰ナルラント問給フ則遠公綺里季等
ト答高祖ノタマハク羽翼成難動ト云臣ハ君ノ羽翼ト云
ハ是也。ウヨクハハ子也源氏物語ナトニモシロカミヲ不取出
テツカフルトイヘルコレナリ其時四皓ヲ太子賓客ト云太

子ノミラウト云心也日本ニ東宮學士ト云官也東宮物
ヲ教ヘ參スル官也カクテ四皓ヲ師トノ政ヲオサメ給漢
ノ惠帝是也

七賢

晋ノ世ヲ去テ竹林ニ琴詩酒ノ三ヲ友トセシ人也名ハ
嵇康阮籍玉成山濤阮咸向秀劉伶等ノ七人也其後
山濤玉成ノ二人ハ出テツカヘリ殘ノ五人ヲ五君トモ五賢
トモ云也

蘇武

漢ノ世ニ胡國ノエヒスヲ平ケンタメニ蘇武ヲ大將軍李陵
ヲ副將軍トシ胡地ニツカハスイクサ強シテ李陵ハ胡國
ノ囚人ト成又然ル間驢テ降參シヌ蘇武ハサスカニ

大將タ九間不降^セ足ヲ剪テ雪中二十九年ノ間羊ヲカハ
セケリ渴^ム月窟^ク水飲^ク飢^ム天上雪^ヲ食^スト李白ツクシリ馬ノ
翅^ツニ書札ヲツタヘテ後ニ蘇武力子ニ天^ヲ誓^スヲソ^シ胡^ヲ責^ム
随^テ蘇武飯^ヲ洛^{スト}云^云

四知^チ

楊震^{ヤウ}ト云人ハ後漢ノ世ノ名儒^ニ關西ノ孔子トイハレシ
人也^{ケイ}荆州ノ刺史タル王^ニ蜜^ト云^云旧知音^ニ來^テ夜^ニ金^十斤^ヲ
ヲ懷^ニ與^テ之^ヲ無^レ知^ル人公是ヲ莫^ク辭^ス云^云揚震云^云天^ヲ知^ル地^ヲ知^ル汝^ヲ
知^ル我^ヲ既^チ四知^{アリ}何^ニ知^ル者^ナト^イト^イハ^ニヤ^トテ^テ不^レ受^ク之^ヲ
ノ名言後代ニ傳^{ヘテ}四知ノ畏^トイ^{ヘリ}

ふれよるふはあにうくびくせん
とろりあつちあめつらふらもせそ宗祇

絶絃^{セツケン}

鐘子期^{シヨ}伯牙^{ハク}二人琴^ヲノ上手^ス也^キ子期死^{シテ}後^ニ伯牙^ノ琴^ヲノ絃^ヲ
タ^キテ長^ク琴^ヲヲ彈^キセ^ズ知音^ノ友^ノナ^キヲウ^レル^心也^カ
友^ヲ知音^ト云^ハ此^ノ古事^也互^ニ琴^ノ音^ヲ聞^キ知^ル故^也万^葉
葉^ニ梧桐^ノ和^琴夢^ニ女^ト化^シノ歌^ヲ詠^フ云^云

いふはひらひらおのろくたんのひさのわらわん
是^モ古事^ニテヨメル歌^也古今^ニ

おのねもやまのあつちよそらちよそら
とれろ人さにいまはあつち

そしよやたしやわらひのひらとち
伯牙^{ハク}山^ノ曲^ヲ彈^スル時^子期^カ云^云我^々タル事^{高山}ノ如^シ志^シ
流水^ニアリ^又子期^水ノ曲^ヲ彈^ス時^伯牙^云洋^々タル流

水ノ如シト云高山流水ハ琴ノ曲也

琴乃糸さしし人いふ

ウシの山の水の流るる

五絃文集云

第一第二絃索々秋風拂松疎韻落官商第二第四絃冷夜鶴憶子籠中鳴角徵第五絃壺掩抑澆水水咽流不得也也松ノ風鶴ノ子ヲ憶壺流水ナシト皆琴壺也五絃ハ四季ト土用トノ壺ナルヘシ

月のあけのく四のを乃

杖のあひ子をおりしつしのあん同

て五ノ四絃トハ琵琶也付ル心ハ五絃彈ノ第一第二第四ノ絃ト取成テ子ヲオモフツルト付ラレタリ

雪山鳥

寒カ苦ク鳥ト云寒ヲクルシユヘニ此名アリ或レ經ニ云寒苦責我夜明造栖此鳥夜如此鳴トイヘリ寒苦ワレヲ世ハ夜アケハ栖ヲツクラント鳴ト云又晝ニナレハヨルノ寒ヲ忘テ今日不知死明日不知死何故造作栖安穩無常身ト鳴ト云心ハ今日ヤシナシ明日ヤシナシシテ又身ノ何故ニ栖ヲツクリテ無常ノ身ヲ安穩ニセシヤト鳴ト云是皆經文也是ハヒルノコエヲヨミタラフ也無常ヲツクルニオトロカ又ヨシノ歌也惣ノ雪山ハ涅槃經半偈投身ヨリ住鳥ニテモ無常ヲトナユル山也

羊歩

長哉

十六

摩訶摩耶經云辟如旃陀羅駝羊至屠處步步近死地人命亦如是旃陀羅トハ狩人也天竺ニハセシタラト云五卷ニ旃陀羅及畜猪羊ト云此旃陀羅羊ヲ食物ノタメニ飼置テ所用ノ時是ヲ殺サニカ爲屠所ヘ引テ行屠處ハホフル所也假令是ヲコロシテ包丁ナントスル所ヲ屠處ト云其所ヘヒキユク間タトヒ百步千步ト云トモホト十カルヘシ死地ノ千カキ事ヲ羊ノ歩ト云也世ノ無常也人ノ命モコノ羊ノ屠所ヘ行ツク間ホトノ無常ナルヘシ

赤染衛門歌ニ

くつし又午の貝くそ吹はまれ羊のあむきとけおろり
是ハ無常也譬へ八日月早過ルハ白馬黒馬ヲ追續テ

隙駒

行ヲ物ノ透間ヨリミルカ如シホトナキ心也隙駒ハ只月日ノ事也朗詠ニ隙駒難追ト作也同駒十カラ駒ハヤキ馬也

魚千里

隨師學道魚千里蓋世成功黍一炊ト云詩ノ上句ニテ付ラル事アリ魚ハ石間ナントヲ順テ思ノハカトキ事ヲ魚千里ト云カ下ノ句ハ耶鞞ノ夢也一炊ノ間ノ夢ニ五十年ヲミケルモハカトキ譬也黍ハ只米ナントノ事也米ヲハアワトモ云也一炊ノ夢ヲ一睡ト心ユルハ惡シ耶鞞ノ古事ヨリ一炊ノ夢ト云事初也飯炊クニ一炊ト云

ゆけくみ子望のろくもわくく
宗祇

月日鼠

是モ無常ノ辟也。經云王ニ逃人アリ醉寫ヲ以テ。是ヲ追シム。逃ルニ道ニ枯タル井アリ。此井ノ中へ心ナラス落入又僅ナル草ノアルニ取ツキテ。底へモ落ツカス。此草ニ取付ナカラ。井ノ底ヲ見ヤレハ大蛇在テクラハントス。然ニ黑白ノ二鼠來テ。此取付タル草ノ根ヲカハル。カフリク。ラフ。此草ノ根。絶ハテナン事。只今也。カハル處ニ井ノ上ニ木アリ。シツク口中へ落入ル。其事蜜ノコトシ。コノ露ノア。ニキニ着。彼此ノ愁ヲコトク。忘トイヘリ。譬ハ王トハ我身ノ作處ノ罪業也。醉寫トハ無常ノ使也。枯井ハ惡道也。草ハ命ノ根也。二鼠ハ日月也。光陰也。大蛇ハ獄。寧也。蜜滴ハ五欲樂也。一切衆生罪アルモ。罪ナキモ。无

常ノ使ノ晝夜ニ追立ルモ不知。日月ノ身ニ世ニル事ハ彼草根ヨリモ無程。只今カノ草根ノ如命。夕ハ十八惡道ニ落ツキテ。獄寧ノ呵責ヲ蒙ラント云事。人々シルトイヘト。手ノ蜜滴ノ如ク。眼耳鼻舌身意ノ六根ゴトニ。フル處ノ愛欲ニ貪着。只今ナル苦ヲ忘ト云。辟也。黑白二鼠ハ經論ノ說。皆日月也。

後京極ノ歌ニ

俊賴卿ノ歌ニ

土御門院御歌

後の世よは治の利生をわすれはあまのつゆの月
あふむじまの孫ともむ嵐うとそは月ぬらぬら
冬枯のまよふ心はつらく日ぬ嵐のつらさ成るる地
諸葛孔明

蜀ノ劉備ト云ハ蜀ノ國王也。劉備天下ヲ平ケシト思
志在テ輔佐ノ臣ヲ求メ南陽ト云處ノ山中ニ諸葛孔
明ト云人アリ。天下第一ノ賢才。文武兼備タル者也。然
トモ世ニモ不交。閑居ノ田畝ヲ耕メアリケリ。劉備聞テ
三度彼孔明力草菴ニ到リ孔明其志ノ切ナルヲ感メ蜀
王ノ輔佐トメ共ニ文武ノ秘策廻シタヒ御幸セシヲ三
顧ト云也。扱孔明十萬軍ヲ卒メ五丈原ト云處ニ陣ヲ張
司馬宣王ト云人ト合戦ス。百余日ヲ雖送物而敵ス、
ス。劍ヘ孔明病付テ死セントス。其前二天ヨリ大流星自
東北流西南ニカモ孔明力陣ノ中ヘ落ヌ。是可死兆ナリ
ヤカテ死スト云。

隋渡碑

晋羊祜ト云者賢名アル者也。襄陽ト云處ノ守ニテア
リケリ。民ヲナテ政ヲ糺セリ。ツ子ニ峴山ト云山ニアソヒケ
リ。羊祜死テ後。其土ノ人民等。羊祜力遺愛ヲ慕。峴山
ニ碑ヲ立ケリ。行人見此碑。泪ヲオトシケレハ。隋渡碑ト
云也。碑ハイシフミトヨム。徳アル人ノ死セル時。石ニ其人
ノ徳ヲエリツケテ立ルヲ碑ト云也。惠果和尚入滅ノ
時。大師碑ヲ書給ヒシガコトク也。奥州ニツホノ碑ト云
處モ石ノ面ニ日本ノ中央ナリト云ハスニテ書給フ故ニ
ソコヲ壺碑ト云。銘字ヲカナフミト讀ガゴトシ。刀ノ銘
ナト也。

石燕

零陵山ト云處ニ石アリ。兩フレハ其石燕成飛。晴又石ニ成ト

云 八んれつとめ乃一はしきまへし之

るをうの常もわくもおあよ 宗伊

逝川 逝ノ字サルトヨム也

孔子川邊ニ居テ曰逝者分クノコトキヤト云逝去ノ人更也

きふくくくめやいめへのま

あつをえれはあつくあよはて 行助

上日

三月上ノ巳日川ノ上ニ盃ヲ浮テ詩ヲ作テ遊フ曲水ノ宴

ト云是也内典舎衛國恒河邊ニ始之其後周魏ノ世ニ此

事アリト云日本ニモ巳ノ日ノ後ト云是也始ハ上ノ巳日ヲ用

今ハ三月三日也光源氏須磨ニテ巳ノ日ノ後ヲ世ニ事アリ

麒麟

仁獸也聖代ニ出現ス生草ヲ不踐頭上ニ角アリ角ノ端
ニ肉アリ物不害學者ハ牛毛ヨリモ滋成者麟角ヨリモ稀
けいめを思ひけりあひへし

なもこたりや桐よすむむる 宗伊

此前句キリン也付句ハ鳳凰也

鳳凰

五色鳥也非梧桐不栖非竹實不食非醴泉不飲非明時

不出云 唐多のおひハ相乃一葉くれ 心敬

守宮

此井モリヲカフニ丹砂ヲ以テス躰コトククアカキ時是ヲ

口シテ宮女ノヒキニヌル若宮女媧犯アレハ其血消滅スコノ

故守宮ト云宮中ノホリメナントノ如ナル故也詩曰臂

良哉

三

上守宮何日消イシノカセ 廉葱花キナシサウ 落淚テ 如雨シ 宮女コヒ ヲ戀タ 夕タ 詩ト ト三
へたりワ 廉葱キナシサウ 八宜キナシサウ 男キナシサウ 草キナシサウ ト云キナシサウ 草キナシサウ 也キナシサウ 男キナシサウ ト忘キナシサウ 也キナシサウ 我カ 身シ 辭ジ 作テ リ

お入りまされまらるはみやりのま

う比中や虫れまらるるもかりるん 宗伊

守宮サウキウ ノシ ルシ トカ ムル 歌アリ 扱サテ 虫ノ シル ト云 リ前 ノ宮
モリハ 只一 宮ノ 人ノ 事カ ツレ ニ守 宮ヲ 取ト 成ナ リ

似我々々

件ノ 虫ハ 蜂ノ 一類 也毛 詩云 蝮蛉 有子 螺羸 負之 朝野 云
蜂他 ノ虫 ヲ含 シテ 我巢 ノ中 ニ入 テ咒 ノ似 我々 トイ ハ
即蜂 ニ成 也故 ニ似 我々 トイ フ也 ワレ ニヨ クト 祈心 也
真言 咒ト ハ皆 正覺 ノ佛 名也 是ヲ 衆生 唱ヘ テ正 覺ヲ
成ヨ ト教 給衆 生如 教コ レヲ 數返 唱シ ハ正 覺ヲ ナス モ

只此似我々々ノ我ニヨクト。タヒク咒願スレハ蜂ニナルカ
如シ トイ ヘリ 咒ト ハ咒 願ト テ佛 ノ子 カヒ 也諸 佛ノ 名ヲ
衆生 唱テ 佛ニ 成カ シト 願給 フヲ 咒ト イフ

杖

禮記云五十杖於家六十杖於郷七十杖於國八十杖於
朝次第々々 杖ツク 事廣 ナル ナリ

杜鵑花

トケシクワハ躑躅ノ事也。杜鵑ハ郭公也。杜鵑泣血ト云。
血ノ涙ヲ流ス鳥也。此鳴時分紅ニ咲ユヘニカノ血ニ染ルカ
トテ杜鵑花トモ云也。岩ツハ 杜鵑 ト名 ニア フ花 ハサ
キ又 サラ ハ杜 鵑モ ナケ ト云 心ヲ

まのしるけりふねまのれまらるる 宗祇

三笑

晋惠遠法師廬山居誓虎溪不過云爰陶淵明陸修靜
ト云二人ノ詩人曰友成ケレハ酒ヲタクハヘテ廬山ニ行遊テ
飯ケルヲ送ルトテ不覺シテ影過溪橋三人拍手大笑
之ヲ三笑ト云也

のむほよれあさやとのあ

そま代あともろこのれよしのと

宗祇

前ノ句ハ琴詩酒ノ三友酒ノミアリテ琴詩ノナキヲ
カナシフ句也付所ハカノ三笑ヲ此酒ニゴフル心也

庭訓

嘗獨立鯉趨而過庭曰學詩乎對曰未也曰不學詩无
以言鯉退詩學他日又獨立鯉趨而過庭曰學禮乎對

曰未也曰不學禮无以立也鯉退而學禮陳亢退而喜曰

問之得三聞詩聞禮又聞君子遠其子鯉ハ孔子ノ子也鯉

ノ庭ヲスクルニ孔子ノ教給フ詞也ソレヨリ和語ニ親ノオヒ

ヲ庭訓トイヘリ委論語ニアリ

胡蝶夢

莊子ト云人夢ニ蝶ト成テ百年花ニタフレケルト云。莊子ト
云書ハ一切夢ヲ談タル書ト云リ堀川百首歌ニ

百とせは花よ夢ひてこりては世は蝶の夢にささる

人よみこあこまよこいれ

きりむりあられこころあて成ぬらん 宗祇

苛政

孔子門人ヲ荆楚ノ道ヲ過給フニ或山中ニ老女ノ子ヲ人

抱泣井タル有、孔子何故ニ爰ニテ泣クト問セケレハ答云
 我夫ヲ虎ニ食レヌ。子一人ヲモ食レヌ。ケフアス此子ヲモ我
 シモ。クラハレシコトノ悲サニ。是ヲウレヘテ泣ト云。孔子曰。サ
 ハナト家ニ皈ラサル女答云家ニハ苛政アリ苛政トハカ
 ラキ政也上ノキヒシキヲ苛政ト云。孔子是ヲ聞テ子
 路ト云者ヲメシテ苛政ハ虎ヨリハケレト云事ハササセテ
 皈リ給又誠ニ上ノキヒシクカラキハ虎ヨリハツラカリケ
 ルアハレナル事也家語ト云文ハ孔子ノ一生涯ノ詞ヲ
 アツメタル物也其中ニ此事モアリト云

宗祇
 前ハ苛政ヲコトハリテサリトモ虎卧山ヨリ苛政ヤハ
 宗祇
 國の人

ツラカラシ誠ニ難知カキ唐人哉ト付ル本説本歌ナトヲ取
 テ付レハカヤウニ本文ノ心ヲモトキテ付ト云是ニテ知
 是モ同古事ナレ是ハ本文ノ々々ニテ我モノニアラス
 ト作者モ申サレケルト云

晋王質ト云者薪ヲ切ニ山ニ入ケル仙人碁圍井タル處ニ
 行又暫斧ノ柄ヲツカヘテコレヲミルニ仙人ナツメノ如ナル物ヲ王
 質ニ與ヘ又是ヲ食ケリ。扱日クシヌ薪切ニト思テ斧ヲモ
 タケレハ空朽タレヌアヤシニテ家ニ皈テミレハオモカケモ
 ナク荒果又シレル人一人モチト不思議ニ思テ人ニトハ

良哉

下是ヲホメケリ楚人失弓楚人得之ト云詞カクシテ
孔子是ヲ聞給ヒテ是程ノ名言ヲ楚人トイヘルコ
ソセハケレ是ヲ天下ノ名言トスルナラハ楚ト云字ヲ
ノケテ人失弓人得之ナルヘシト孔子ノ夕ニヒケルト云
○塞馬トハ宋人句云人間萬事塞翁馬椎枕軒中聽
雨眠此句ノ意ハ人間万事善不善惡必不惡不可喜
不可悲ト云也淮南子云塞上ニ翁アリ失馬皆訪之
翁云惡何必トモ惡ナラニ數月アリテ此馬將駿馬來
人皆賀之翁云善何必善ナラニ其子好騎馬墮折臂
人皆訪之翁云惡何必惡ナラニ一年胡國大ニ乱ル壯
年者皆戰死ス此子獨以折臂故不出戰得全壽此
二物得失古事也此句ハ楚弓塞馬ヲ付ルニアラス只

世間ノ道理也得テ喜ヘハ又失事アルナラヒ也サレハ願
ツキヌル事ハ人世ニ六十キヨレノ句ナリ

ふゝ糸ふゝなつさをい
ふゝ糸ふゝなつさをい

市隱家

小隱ハ隱陵藪大隱々朝市此世ヲナメステニスル人ハ陵藪
トテ山ニカクル陵ハヅカ藪ハヤフ也只是ハ山タルヘシ大隱トテ
世ヲステスミス人ハ朝市トテ都ナシトノ人ノ多キ中ニ
モ交ルナリ心ヲステスミス人ハ如此

ふゝ糸ふゝなつさをい

ふゝ糸ふゝなつさをい

此等ハ大隱ノ人也小隱ナラハ花見ニ來ン人ニモ可隱我

住山ノ花ニ都人ナトノ打乱テ酒宴ナトアルハ其衆ニ成
テ人心ニ随誠世ヲ捨タル句也。是ソコト心深世ステ人
ナト付ラル事也

朝市

アサイチニハアラス。朝市トハ名利ノ二也。左思カ蜀都賦
云爲世朝市注云争名者於朝争利者於市トイヘ
リ朝トハ内裡也。官位重職ノ名思人ハ朝ニワレル者也。内
裏ノウラノ方ハ唐モ日本モ皆市ナリ。商賣ヲ思フ人ハ
皆此市ニワレル者也。去程ニ朝市ノ二ハ名利也

麻中蓬

曲蓬モ麻中ニアル時ハタメサルニ自ラ直シトイフヨキ
友ニ交レハ悪人モタメラシテヨクナルト云タトヘナリ

世の中ハ直人ハ一人モナシ心ノ蓬ト云ハニカル人也
まゝに世の中ハ直人ハ一人モナシ心ノ蓬ト云ハニカル人也
まゝに世の中ハ直人ハ一人モナシ心ノ蓬ト云ハニカル人也

宗祇
ひねあまのりよるるよりのさぬ

遼畔

虞芮民遼畔云周文王時訪訟アル者都ニ行途中ノ田
中ニ争物者アリ論田トミケレ分サナクテ田ノ堺ノ畔一
方多クタノ畔ト云一方ハ又ツナタノト云正直ノモノニ入
アルヲコノ訪訟ニ行者ニテ此世ノ政道ノタニキヲ耻
テソコヨリ都ニモユカテ飯ケリ。周世ノ正キ事是ニテ知ヘシ

しるれやいしれくのりしるる

いぬハ小田れ時をいゆつるを子行助

○論語三年无改父道可謂孝云父ニオクシテ三年ハ何事ヲモ改メカエサルヲ孝トスル也前ノ法ト云字ツカヌヤウ也人ノ跡ヲ三年アラタメサルハ格式法也格或法度也

心敬

○論語云不義而富且貴於我如浮雲云不義トハ道ナラテト云也我身ニ道モナクテ富貴ナルハ浮ヘル雲トトシト云也タノ三十キ心也此句ノ付ヤウモ道十キ身十レハ他タルモツラカラスウカヘル雲ノ世ハイヤト付ル也

乃あ〜ぬあ〜いひぬ〜つ〜あ〜て 宗祇

○子曰予欲无言子貢曰子如不言小子何述焉子曰天何言哉四時行焉百物生焉天何言哉云云心ハ孔子物ヲイハジト思ト云子貢ト云弟子カ云孔子若物ヲノタハス公門弟子也小子何ヲカノヘト云孔子曰天ハ物ノ給子臣四時アラハレ万物生スル事ハ天ノナス處ナリト云

あ〜と〜あ〜は〜あ〜つ〜い〜ろ〜ま〜み〜し〜き〜り

○千里始足下高山起微塵云此心ヲ以テ古今序云遠キ處モ出立足モトヨリ始タカキ山モ麓ノチリヒチヨリナリテ兩雲カ、ルマテトイヘリ前句千里始足下ト云句ニテ付也

子星つらりのつらハおち〜し〜おち〜し〜き〜あ〜ひ〜さ〜れ〜山〜を〜し〜ら〜も 同

而知者次也。困而學者，又其次也。云

かこつてはむしめあゝ〜れさこい〜

〇崑崙山无石以玉打鳥，彭蠡蠲无薪以奠炊飯。宗祇

玉とてくもとの内かきのお〜れ哉

行助

〇未明先見海底日，良久遠雞方報晨。龍泉寺絕頂

ト云題ノ詩也。註云泰山東岸名曰觀雞，一鳴ニ三ニ日

出高數丈，云泰山ハ高山也。其頂ニテ三ニハ雞ノ未鳴時

分ニ海中ヨリ日出。然後鳥鳴。云ツ子ノトコロモ夜ノ寅

時ヨリ。ハヤ白ク成テ明ル。氣色ノアルハ日影ノス、ム心ナリ

高山ニテ三ニハ夜中ヨリ日影ニユヘキ物也。

つあゆりあは子りまはれほほ〜日ハ切〜

是モ同心也。海中ニ日ノホノクト句ニツルヲ朝ノ空カト
思ハ。夜ハダノヨリケリト付ラルナルヘシ

あ〜このあ〜あ〜あ〜のあ〜

〇此發句ハ高山起微塵云句ニテセラル秋山色ヲ見テ

紅ノ塵ツモリテ。秋山ト成カト云。紅塵ト云事アルハカク

云也。塵トハカリハイハテ。千リヒ千トセラレタル古今ノ

序ヲ思ヘルナルヘシ

〜れま井のち〜ひらた〜杖の山 宗祇

〇蘇ノ塵ツモリテ山ト成ト云事ヲ地盤トメ此發句ハタト

ヘテイヘル句也。山櫻ノ一花咲出タルハ山ト成ヘキ蘇ニ千

リノスコシ。タミレルカコトニ此千リ積テ山ト成如此山櫻モ
一花ミエツヌテ山櫻ト咲ナスヘキ申ノ句ナルヘキ不可説ノ妙
句也 一とれやあとのちりれ山さく 兼載
○千里鶯啼緑映紅ト云詩ノ心春千里ヲミワタセハ緑
モアリ。紅モアリト云心也

花よ句ひみよりよめらじのりき 泉祇
○杜子幾詩ニ朝回日々曲春衣毎日江頭盡醉飯酒債尋
常有行處人生七十古來稀此第四ノ句。名言ナル故ニ人
ノ口ニアル詩也心朝トハ内裏君ニツカフル身ナレハカク云也
朝ヨリ歸テ衣ヲ酒ニカヘテ。毎日醉也。江頭ハ江南ノ事也
詩人ノ多キ處也サルトニ酒ノオヒモノ行處コトニアリ債
負物ナリ第四ノ句ニ前ノ他言ヲウケ拂テヨシク人生七十

古來稀ト云名言也。杜子幾カ時分タニモ。七十ニテ公ニナリト
イヘルニ宗祇ノ八十二ニアミレルヲ哀ト云句ナルヘシ

泉のいのちのちりれをいのちのちりれ

ひしひしとけしきありあつ年のちりれ 宗祇
○松間寂々无烟火應服朝來一片霞列仙傳云仙人春食朝
霞无烟火ト云句ヲ烟モ夕ヌト云處ニテトリ出ス也命ニ
テト云ハソレニテ世ヲ渡ル事ヲ云。真柴ヲ命ニテ。釣ヲ命ニ
テナント云マトノハニカ、ルハカリヲ命ニテト云句ハコトノ分
頼ハカリニ命ノカ、リタル也ナニヨトモツレニテ命ノカ、リタル
コトヲ命ニテト云也

かありしとてぬらうのちりれ
山人とてまらぬらうをいのちのちりれ 同

○十日菊ト云題ニ節去蜂愁蝶不知曉庭還繞折殘枝
自縁今日人心別未必秋香正夜表此詩ニ付スルナリ

一花よりのりらとくちり

たもつゝふくあひ十日れきまのりけ 宗城

是同心蜂蝶節去ヲモ不知ト前詩ニアルユエニカクノコトシ

ツクニマリ 折のこすまはこつふの宿り御製

○一夜落花雨万城流水香コノ心ヲ

西よけさむのよあしぬ水りほ 專順

○十二月ノ花鳥ニ二月ハ櫻ト雉トナリ是二月ノ花鳥ノ發

句也花鳥ノ發句ヲスルニ花カ鳥カ一方ヲ云テ一名ハソレ

ト聞エルヤウニスルモノ也鳥モ時ナルカナト云テ雉ニ成也

論語ニ子曰山梁雌雉知時哉云子路供之三嗅而作云山ニ雉

ノ鳴ヲ聞テ孔子時哉云トノ給ヒナレハ子路ト云弟子コレ
ヲヨシテ奉孔子ノ心サラニ是ヲ食ハヤノ心ニアラス時ヲ知
テ鳴事ヲ感セラレ也ニ夕ヒ嗅テマテラレシ事ハ子路
カ隨分ノ心サレカホナルヲモステサル心也此發句花ハ櫻
鳥ヲハ時ナル哉ヤト云テ二月ノ花鳥ニナルナリ

花多のそむりや桜り 宗砌

○是モ正月ノ花鳥也花ハ柳鳥ハ鶯也鶯ハ柳ヲ宿トス

ルコト和漢同漢ニ梅ヨリモ柳ニ鶯ヲ用來也サルユハ初

花鳥柳ノ糸ニスヲカケヨト云也スカ柳ハ柳ノ一名カ

いさけよゆ花多のそむり柳 心敬

○輕舟短掉唱歌去水遠山長愁殺人水遠山長ノト云ヲウ
千カヘテ山遠水長トセラレタリ愁殺人ノ殺ノ字詩ニ多シ

愁殺トハウレエノハナハタニキ心也飛殺看殺笑殺ナントツ
ヘテヲクイヘリ皆ハナハタニキ心也

山をくくろむるのふりり 宗祇

○春風剪樹ト云事アルナリ春ノ梢ノ剪調タルトクウ
ツクニキハ春風ノキリヒトシクセルカト云心也此發句ハ
春風木ヲ剪ハ花ノ散カトブサニ似タリト云トフサニ説
アリコニテコケラ也又木ノ枝ヲモトフサト云也

木とさしめし花とささるるの風 專順

○五柳先生元有山偶然作客落人間秋來見月皎思多
自起開籠放白鷗此詩ノ心也五柳先生ハ陶淵明也モト
山ニアリシカ賓客成人間ニ出也秋ニテハ月ヲ三テ山ニ飯
タキ心アル也我心ヲ以テ籠中ノ鳥心ヲ察ノサツ山ニ飯リタ

ク思ラントテ籠ヲ開テハナツト云詩也

このうらよ山びられもなすけて 行助

○此歌ハ法華法師品ニ漸見濕土泥定知逆水ト云ヲ題
三テヨメル歌也法華ヲ高遠ニ思テヤ台ト十カレイカナル高
原モ穿鑿金スレハ水ノアルモノナリ其如ク高遠ナル法華也ト
モ修習セハ道ニ入ヘト法師品ニトカル

あつてみてやちしうくらん

法のみちうつく神のうらみひく 宗祇
むさしめのありく 宗祇
此等皆法師品ノ心也

みらまりくらうひさ 野の系

人よふ家ありし子の井や法乃の肖拍
○佛ノ姨母摩訶波闍婆提ホトケノ授記ヲ蒙ラサル事ヲ恨
ケルヲ佛聞給テ後ニ授記ヲサツケ給ヒケルト云

はまの法のおまゝをよえし

うゝんつゝもすて山月よみて宗祇
○衣ノ至トハ法華ノ事也四卷ニ衣裏寶珠云或人酒ニ酔テ
子タリ其間ニ人其イ子タル者ノ衣裏無價ノ寶珠片價カキ
ラ又玉ヲカケテ置タルヲモ不知醉サメテ求索衣食トテ衣
食モトメシタメニ他國ニテサマヨヒ行タリ醉酒而卧トテ無明
酒醉卧真如玉衣裏ニアルヲモ不知カカリナキ事也此玉ハ則
法華也醉卧人ハ一切衆生ナリ玉ヲカケ人ハ釋迦也法華
ニ説置給人ノ身ニ玉ヲ掛給ナルヘシ

ふふとぬむのむかゝや

さうつあゝそちろみゝるま 宗祇

○此歌ハ女房ノ出家スル時ノ歌也宗祇白盃ハ手ニ取物
也手ニトルヘキ衣ノ玉ハトラテ。盃ヲハ手ニ取酔酒卧心ナリ
いみよのむかゝやとらむ今ハむかゝとたのまん
○思家火宅也思ハ火也火ヲ思トヨメル歌數ヲ不知是モ三卷
ニ三車火宅ノ事也辟長者アリテ火宅ヲカヘテ居其宅ニ
只一門アリ次第ニオトロフルニニクツシオチ柱根クチ又割
火付テ此家ヤクル時長者ノ雅子家中ニ有テ不出父ノ
長者門外ニアリテ悲ノアミリニ羊麻牛三車ヲカサリ色
色ノ阮好物ヲツミテ子共ニ世テスカシ出シ又出オハル時
大白牛車ヲ以テ寶前ニイタラシム此子共ハ三界衆生

也。父ハ釋迦也火宅ハ三界ナリ三車ハ三乘也小乘ノ法
ナリ大白牛車ハ法華ナリ開三顯一ト法華ヲ云是也三
車一車ノ事ナルヘシ曉車ノ行音ヲ聞テ誰カ今火宅ヲ出
テ行ラレト付ラルカ

たまきうさそくおのひの家をわつらん
あうつま目よ車一層うちと

宗祇

世中を牛け車乃ありをな思ふのちれとておま
世間ノウエトハウキト云心也此ウキ世ヲイテシ事ハ法花ナ
ラテハト云歌也

う〜れちう〜びこれハたのもん
さあさけは〜〜麻の〜〜あれ 同

前句ハ尺ガヲ子カフ由也牛ハ強カナル故也付心ハ法華ノカ

ヲ我ハタノニシ三乘ノ教ハ淺教ナレハト云心也

○三卷化城喻品心也アル人ヲ一人導師アリテ寶處へ誘引
セント云五百由旬ノ峻難ノ山ニテ弱リ尊卧タル氣色ヲ見テ
中間ニ城化作寶所也ト云ニトノ寶處思歡喜セシ事也
法華ヲ開近顯遠ト云ユレ也カリノニヤコハ化城也

のちうしとびさし山さけらるる

たまきうさそくおのひの家をわつらん 泉砌

○イツクニミトハ君ノ恩惠也メクニノ事也付句法花トハ法
華ニアラス花嚴事也花嚴ハ初三七日ト云テ釋尊ノ寂
初ノ說法也嚴字ヲイツクニミトヨム故也サテ付句ニ花ト
云字ヲ置テ花嚴ニナル也ハニ々ハ遠クト云テ寂初心アルナ
リ花嚴ヲ寂初二説ヨリ佛嚴四海ニ滿付也

いつくみくろくくろくくろく

法のよめくろくくろくくろく 宗祇
○佛御入滅ノキニ諸ノ大衆ヲ聚テ禪法ヲ説クニ婆羅門ノ
花ト云花ヲ一枝指揚給フ八萬ノ大衆ヲ心ヲ不知愛ニ迦葉
尊者并ニ破顔微笑其時佛曰我正法眼藏涅槃妙心實
相无相微妙法門アリ摩訶迦葉ニ付嘱スト宜去程ニ迦葉
第二祖トスルナリ世尊不説ノ説迦葉不聞聞ト云是也是ヲ
拈花微笑ト云也拈ハ手ニサシテフル心也

くろくくろくくろくくろくくろく 心敬

○西引來ル法トハ禪法也達磨ノ西天ヨリツタリ給フ故ニ
云カ付心ハ如何是祖師西來ト云ケレハ庭前柏樹子ト答ケ

ル心也今禪院ノ庭ニムロノ木ヲ左右ニウフル此心ナリ是ヤコ
ノトハ庭前ノ柏樹ヲ云心ニ付カ

庭のくろくくろくくろく 宗祇

○涅槃經ハ法華時味機根熟モノアリケルニ御入滅ノキニ
日一夜ニ説給ニ經也サルホトニ法華經ハ法花ト同味醍醐味ノ
經ナリ五時教ノトキモ法華ト一時也

世中くろくくろくくろくくろく

心敬

○杜子幾カ春日憶李伯ト云詩ニ渭北春天樹江東日暮
雲是名句也ト云日暮ノ雲トハニアル間江東ト付ル
也舟ト九江三月ノ出時分誠サヒニカルヘニサヒニサト云

所付物也サヒシケニツケナスナリ

日のくれゝのやれさひ

みとむら入ぬらひひし月あはく 宗祇

○只與友可好風雨又來過スト云詩ノ心ヲ

ヨるぬへさゆへともさるぬぬ

こころあはるさるもれあはれさ 同

夜錦

朱賣臣字翁子會愁ノ人也好書讀長安ニ詣ツ武帝
是ヲ賢ナリトス後ニ會愁ノ大守ニウツル守護ナトノ如
賣臣カ云富貴ニ古卿ニ飯ラサルハ錦ヲキテ夜行カ如ソ
ヨリ物ノ世ニキ事ハ夜ノ錦ヤミノ錦ナント云也源氏ニ
ノ紅葉ヲヒトリ見ハ錦クラフ覺テヒイヘリ又染物ヲキテ

夜行カコトケント云モ同心也

おれとどろつゆを糸きておれい海とやうらん
んく人もあておめあはれぬ糸はうらぬ錦はら

獸炭

羊琇ト云者獸ノ形ニ炭ヲ燒テ木人ヲシテ酒瓶ヲ抱サセ
客來シハ木人ヲシテ酒ヲ獸炭ノ火ニ温メシメテ客ニアタ
ヘテ真トシケリ

けいりあはるさるもれあはれさひ

前句獸付心ハ獸ヲエニ書タル墨取成勢カヲ獸ニ付ル也

けいりあはるさるもれあはれさひ

此句炭ニ歎ヲヨセ上ルト云ニ歎ノ雲井ニカケルト付淮南王
仙術ヲ好テ學仙藥ヲ服ノ成其藥ツキタル曰キ子ナト。
雞犬ナトノ子ロリケルカ仙ニ成テ雲ニホリケルト也其歎
雲井ニカケリレハ遠世ノ事也今炭電ノ烟ノ三雲井上付
尋友ヲ

王子猷山陰ト云處ニアリ山陰ハ王羲之以來王氏人居處
也或時大ニ雪フレリ四望皓然夕夕月サヘ出テ面白カリ
ケレハ屋ヲ開テ獨酒ヲ酌其比載安道ト云友々千刻
ト云處ニアリ川上ナリコノ月雪ノ與ニ乘小船三掉安道
ヲ尋テハルクトサレノホル既安道カ門ニ至夜明月入カシ
トモ云入スレテサレテ飯其故ヲ問ニ答云與ニ乘ノ來與
ツキテ飯ルト云誠ニ深情ナルヘシ歌ニ

山崎や友と尋し流ありてみよあけの空雲月極
山けや花の雪ぢるぬちあけの月と波と見ん

友とやまきんちとけりたうくあり

山けの雪れゆらさみさくく 宗枕

さくさくやけり月とやめるとゆりこそ

みみくさくさく雪の山けけ 同

此等三十其古事ヲ本トノ付ス句也

月宮に友とさくさくめ初りれ 心敬

都ノ感也雪月花ニハ夕子又友ノ多心也地盤古事ナリ

橋中仙

橋ノ木ヲワリテミレ中ニ仙人暮ウキテヤリケルナリソ
ノ仙人ハ高山ノ四皓ニテアリケルトイヘリ

花さくらさくらぬのうららうららけ
仙人や暮らよせ死をうららけん 宗初

門柳

陶淵明門ニ五株柳ヲウケル間五柳先生ト云又東籬
ニ菊ヲウヘテ酒ヲノミテ此花ヲ愛シケリ株菊東籬下
悠然見南山ト云詩モ此人ノ作ナリ或時九月九日无酒菊
ノ下ニトセント有ケルニ王弘ト云人酒ヲ送ケリ其酒モテキ
タレ使白衣ヲキタリ朗詠ニ王弘カ使ハ立晩花前云是白字
題作詩也古今歌ニ
むつづく人ほとけは白の神とのさうあやまらぬ
是ハ此古事ヲフマエテ菊ヲ白妙ノ袖カトヨメル歌ナリ伊勢
物語ニウクリケル人ノ袖カトヨメルモ是等ノ本文ヲ以

ヨリ惣菊ヲ浪雪月ナトニ似セテヨメリ古今ニ

秋風の吹くよけにさう白き花あゝぬはのよけ
あゝあゝは秋ののさうのしと思とくひそ白き花む

又星ニタトフル和漢正同漢ニハ金ニモタトフ

久しきあきのさうさうさう天は白きさあやまらぬ
又朗詠ニ秋雪洛川廻疑曉星河漢轉如ト云ハ菊盃ニ浮ハ洛川
ト云川ニ秋雪ヲ廻カト云曉星天河ニ轉スルカト云也皆菊也

貴長房

仙ヲ好テ仙翁ニ逢テ仙ヲ学仙翁一壺中ニ貴長房ヲ引入
テ仙術ヲオシヘケリ其壺中別世界ニテ非人間世壺中夫
地乾坤外トツクルモ是也乾坤ハ天地也此ツホノ中天地
ハ常ノ乾坤ナラスト云也仙境界ナル故ナリ長房此ツホ

盤觴

物ノ始ヲ云也岷江ト云河ハ其始岷山ヨリ出テ小水ニシテ觴盤
ムルホトノ流ナレバ楚國ヘ流入テ滄波万頃非舟船不可渡
山谷詩云岷江始盤觴入楚即无底云後撰歌ニ

つらねぬ川よりあつらひの川をそそりて流とみたり
此歌三十ノ川モ我戀モハレメウツトカカリニテ。フカキ淵トナル
心盤觴ヨクカナル歌ト云連歌ニ此心付句多

龍門

龍門ノ滝本ニ其スツアル魚凡悉此滝ヲノホラン心アルナ
リ。ノホリエツレハ龍ト成トイヘリ此滝ニカキラス惣ノ川魚ハ
大小凡テノホル事ヲ尋ヌルモノ也和列龍門ヲ唐龍門ニ准テ
地是龍門越水登ト天神ツクリ給ヘリ

わびらんうらふしをそそりて

りてみんのりふいそそりたけのり賢哉

タツノ門トハ和列龍門ノコト也前ニ付ルニカノ龍門ニトリ成也

三樂

榮啓期云天生万物其中人爲貴我爲人一樂也男尊女
早シ我爲男トノ樂也人生シテ有リ不見襁褓吾年九十五
三ノ樂也云

鳩杖

老人杖頭ニ鳩ノ頭ヲ刻テ用其心鳩ハ物不噓鳥ナリ老人
ソレニアヤカリテ物ニムセトナリ杖ニハ乘ヲ用テ採乗老ト
云事アリ樂ノ名カ

兩鳩

兩鳩呼婦晴鳩遂婦云鳩ハ兩フレハ我婦ヲ呼晴遂ト云

桃源

晋太元年武陵ト云處ノ人魚トランタスニ舟ヲサレテ谷ノ流
ヲ行ニ道ヲ失テ桃林ノキニシヲサレハサメル處ニ行カリ又百歩
ノ内コトホナシ落英繽紛タリ猶水上ヲ尋ユクニ一ノ山アリ
山ニ少江アリ舟ヲ捨テ歩行ニ人家アリ田地アリ雞犬アリ男
女アミタアリ漢人間之谷云我ハ秦時世乱シノカレテコト一乘
ヨリ通事ナシトイヘリ桃源是也秦ヨリ晋ニテ五百余歳
奇犬吠花ホユル流江桃之浦云ルコノ心ナリ

萍

百詠萍詩云頻隨旅客遊ニテトウセイ蘓水隨東西スルヲ旅人ニタト
フル也古今大伴黒主三河様ニ成テ下時小町ヲサツフ詞ニ

縣アヲ三三ハ出タニヤト云ヤリケレハ

侘ぬぬイロヒをほまの糸と結アハてまゝあゝハあゝハ
蘓サヲ旅客ニタトフル物也我ヲ人ウキクサニタトヘテサツハ我モ
旅立ニト云心也

昇仙橋

城北七里昇仙橋アリ馬相如都ヲ出テ學文處へ行時此
橋ノ柱ニ題曰大丈夫駒馬ノ車ニ不レ乘復不レ過此橋云
心我學文ヲトケテ高官ノ身ト成テ駒馬ノ高車ニルホ
トノ身ニ不レ成復此橋ヲ渡ラシト誓テ橋柱ニ書付テ行
ケルカホトナク思ノ如成ナルトイヘリ堀河院百首橋題歌顯
思ハのハ橋ハ々々ハにハつハきハてハ昔ハのハ人ハをハ位ハまハりハたり

六百番歌合寄橋戀

顯昭

我が心ゆくも思ふまゝのこゝろに候しとて思ふより候ふまじき

庭家難題百首橋下歎冬

橋下候ふるよおらんまはぬくはいつてくもふしゆのむ
此歌ハ昔ノ相如ハ思事ヲ色ニ出テ橋柱ニ書付ケリ。此歎冬ハ
思事ヲモ言テツ句トヨメル也。歎冬ヲイハヌトヨム事ハ僧正遍
昭イニ夕良峯ノ宗貞ニテ好色并ナカリケリ。是ヲ帝ヨロシ
ントニヤ。后ノ子ヲシテ歎冬色ノ御衣ヲ別カシキテ御簾ノ中ニワ
タラセ給ヲ。宗貞コレヲケサウシ奉アヘテ御返事ナシ其時
山あふれ花あふむめや流さつてこゝろのあけはて
ト讀ル時御門御貞ヲ出シ給宗貞心中可思雖然アテ勅
勘ナクイヨク御氣色ヨカリケルト云。オツレアル故ニ此歌ヲハ
子息ノ素性ニヤリケルト云。ツレヨリ以來ヤラキゾイヌト

ヨミナラハセリ宗貞サヤウノ御ナサケアリカタク思ケルニヤ仁
明天皇崩御ノ後御送ニ出シテ家ニモ不飯十八ニテ遁世ノ
僧正マテ任シテ御菩提ヲタスケ奉リシ也彼遁世ノ趣大和
物語ニアリ

菱花 鏡ヲ菱花ト云

池あふれひーの花さくあゝまは 行助

蒨茨

堯位ニツキ給ヒテ民ノ費ヲイタミテ蒨茨不箭カ杖椽不削
衣裳無文トイヘリ家ヲ尊フニチカヤナシト。キリトノフル
事ナク杖木ナシト。ケツラス黒木也衣裳モ文ナトツツを漆
ル事ナシサレハ堯ハ今ニ賢君ト申傳タリ

烏鵲繞木

月明星稀鳥鵲南飛繞樹三匝何之枝依短歌行鳥鵲
匠ニカラス也木ニトニル時ニ三返木ヲメクリテトマル也

山けりめくろかえの川あり

かさくきぬこのよりの木にありて 當

西湖

雨梅蓮柳ナントノ各地也若把西湖比西施淡粧濃抹兩
相宜云詩西湖ノ雨ノ詩也西湖ヲ西施ト云義人ニタクラヘ
ハ雨ノフルトキハ西施カ假粧ニタルニ似タリ晴ツレハ西施カ
タ、ガホヲニルコトクフタツチカラ面白ト付ルナリ只地景ヲ
ホメントテカク云也

舟の入は梅りありあり

日ハあゝのゑ海と波くるは伊 宗伊

西ノミツウミナント、サレ出タルハ句カラ無骨ナリ。日ハ西ノ
ミツウミト云。夕暮ニ舟ノコキ入射梅ト雨トヲ去テ。西湖ノ
地景ヲ去タル面白キ句ナリ

人日

正月一日鶏ノ日トス。三日ヲ狗。四日ヲ猪。五日ヲ羊。六
日馬。七日人日トス。八日ヲ穀日ト云テ此日天氣能風吹ヌヲ
豊年ノ兆トス。雞狗猪羊牛馬人日ト云也。六日マテヲ六畜
ノ日トス。七日ヲ人ノ日トス

人の日しりきりよのよありあり

葵

宗砌

葵ハ日ヲオソル、花也兼ヲ日ノヌクル方ニカタフケテ。本ヲカ
クスト也百詠ノ詩ニ葵ノ日カケニ。カタフクカ如我モ君ニ頭ヲ

頃テ朝夕仕ヘント云詩アリ俊成歌ニ

葵ノ日ニ頃ク如ク我モ神ト君トニ心ヲ傾クルヲ天照大神

モアハレニ給フラント云也左傳云鮑莊之智不如葵之能衛其足云心ハ其比鮑莊罪ヲナス事アリテ足ヲ削然

ハ葵ニハオトシリ葵ハ以葉其モトヲカクニテ用心スル故ニ

无難鮑莊ハ足ニ用心ナキヲアサケル詞也

○稊下ハ俗字也北四番花信風雨梅 歲時記云九一年中

花信風北四番吹也梅ニ吹ソメテ棟ニトニル

梅をぬつてくく白ふあつらふ 宗祇

隣笛

文選思旧賦隣人吹笛其色寥亮夕リト云

ひーん 庭の梅の影をわたりて

三徑

蔣翊三徑三道貧家也イカナル貧家ニモ三徑ハアルモノ也

其三六門へ行道井へ行道東司へ行道也蔣翊ト云者貧

家ニテ三徑アリ淵明カ家ニモ三徑アリ源氏ニ蓬生ノ宿ニ

三ノ三ノアリト云

○楓橋夜泊 月落鳥啼霜滿天江楓渙火對愁眠枯蘇

城外寒山寺夜半鐘聲到客船

○三月晦日 三月正當三十日風光別我苦吟身與君今夜

不須睡未到曉鐘猶是春

連集良枝終

寬永八稔乾梅中旬

伊地知氏書冊

開板

志
書
印

